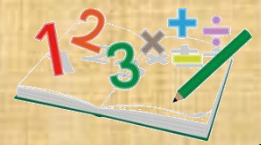




算数・数学部報



キーワード

～「価値づける」「導入がネタバレ」「チーム学習」「プレゼンテーション能力」～

岡崎市現職研修委員会算数・数学部 部長 溝口 了実

令和3年度も新型コロナウイルスの影響を受け、東数教愛知大会が紙面開催になったり、数々の研修会等が開催方法を変更せざる負えなくなったりという状況となってしまいました。しかし、読書会等は指導員さんや世話係さんの尽力で、形を変えながらも開催することができました。感謝します。

さて、この1年を振り返ってみると、心に残った言葉やフレーズ（キーワード）があります。それを紹介します。

① 「価値づける」

夏休みに行われた授業力・教師力アップセミナー（基礎編）での東京学芸大学附属竹早中学校の小岩大先生のお話です。数学的な見方・考え方を働かせる授業づくりには、子どもの考えや態度を積極的に「価値づけて称賛する」とお話ししていただきました。本校でも今まで以上に取り入れました。

② 「導入がネタバレ」

1月の読書会では愛知教育大学准教授の青山和裕先生が、「データの活用の指導におけるタブレットの活用方法」についてお話してくださいました。その中で、「授業の導入が頭でっかちになっていて、子どもの自由な考えを阻害し、誘導になっていないか」、「導入がネタバレになっていないか」との提言をいただきました。どの教科にも思い当たる節があるのではないのでしょうか。

③ 「チーム学習」

本年度の岡崎の教育界のトレンドですね。4人1組のチームをつくり、教師対学級全員という一斉授業の形態から脱却し、チーム内での関わり合いから、誰一人取り残さない授業をしていこうという取り組みです。本校ではまずQUテストの結果を参考にし、4人1組の中に必ずミニティーチャーとなりうる生徒を一人入れるようにして実践を始めました。チーム内での話し合いをすることで「自己肯定感」を高め、不登校生徒の減少につなげたいと考えています。

④ 「プレゼンテーション能力」

これは私のマイブームです。毎週土曜日の夜7時からのTV番組を欠かさず録画して試しています。人気のお笑いコンビと子役のときから有名な女優がMCで、小学生や中学生が自分の興味のある内容について深く研究し、その良さをプレゼンする番組です。野菜、世界遺産、昭和家電、調味料、文房具など、プレゼンする内容は様々です。しかし、彼らの知識や研究のデータ等の豊富さはその道のプロもビックリするものです。私が感心するのは研究の深さもですが、「プレゼンテーション能力の高さ」です。発表原稿を見ることもなく興味のあるものを紹介し、MCからのツッコミにも対応できます。何よりその良さをどうしたら相手に伝えられるかを考え、図やフリップ、写真等を利用したり、言葉を選んだりしている点です。きっと彼らは大人の考えを押し付けられず、自由な発想を親御さんに認められる環境で育ったんだろうな、といつも思われます。

子どもたちの「生きる力」を育むためにも、授業や行事、部活動でも「教師の押し付け」にならないように4つのキーワードを来年度につなげ、自由な発想、考え方を認める学校でありたいと思います。みなさんの来年度のキーワードは何ですか？

指導員訪問を終えて

来年度に向けて

チーム学習や数学的活動を通して、子供が主役となる授業が多く見られました。そこでの、主体的に学ぶ子供たちの表情のよさが大変印象的でした。また、タブレット端末を利用して、子供が個の考えをもつとともに、他の子供の考えと比較・吟味し、自分の考えをよりよいものとなるように再構築する姿も見られました。さらに、教科としての学びの本質を確かなものとするように、本時の学びや数学的な見方・考え方に触れる考えに対して的確に価値付けできる教師の力量を高めていきたいと考えます。そして、算数・数学科としての目標に掲げられる「根拠を基に筋道を立てて考え、統合的・発展的に考える」姿の実現を目指し、共に研鑽に努めていきましょう。

(算数・数学科指導員 広幡小学校 加藤良彦)

来年度に向けて

岡崎市では、一人一台タブレット端末が配付されています。配付した問題シートの図を子供が操作しながら考えたり、個の考えや振り返りを全員で共有したり、教師が子供の考えを把握しながら机間指導をしたりと、有効的にタブレット端末を活用する場面が多く見られました。ただ、とても便利な道具である一方、子供がこれまでの学びを振り返ることができるようになってきているかが心配です。算数・数学は、特に系統性を大事にしなければいけない教科です。子供がこれまでの学びを生かしながら本時の学びに取り組めるよう、前時までの学びを即座に振り返ることのできるノートと併用しながら、学びをきちんと蓄積していきたいものです。

(算数・数学科指導員 城南小学校 秀野亜友)

☆アイデア集の授業の紹介

(小学6年4月)

単元：対称な図形 (アイデア集第33集 P36, 37)

準備 対称な図形の例 方眼用紙 トレーシングペーパー

学習課題 「対称な図形になるオリジナルマークを作ろう」

導入で提示された、身の回りにあるマーク(企業のロゴ、都道府県章、国旗など)を見て、身近なところにも線対称や点対称になっている図形がたくさんあることに気付くことができます。そこで、対称な図形とはどんな仕組みで構成されているかを学習し、単元のまとめとして対称な図形になるオリジナルマークを作成します。方眼紙で作図するとき、トレーシングペーパーで写し、図を半分にしたり回したりして対称な図形になっているかを確認することで、作図が苦手な子も自信をもってかくことができます。友達に自分のマークを紹介する際、なぜ線対称・点対称な図形と言えるかを説明できるようにすることで、対称な図形の特徴を再確認することができます。オリンピックのロゴ、学級章など、オリジナルマークのテーマを決めると、取り掛かりやすくなると思います。

<文責：加藤雅代(奥殿小)>



北海道



愛知県



ペアで確認している様子